

国鉄再建法案粉碎！

ローカル線切り捨て反対！

日刊 動労千葉

80.3.5
No.367

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電二二五八・九・（公衆電話）三七二〇七）

動労千葉、勝浦支部を先頭に木原線廃止反対に決起。

2月19日、政府・自民党は、「今回の国鉄再建計画は最後の再建の機会であり、これを達成しない場合、民営への全面的移管以外ありえない」と再建計画の実行を迫る付帯決議をつけ、ローカル線廃止の「見切り発車条項」を盛りこんだ「国鉄経営再建促進特別措置法案」を国会に提出することを正式決定した。この法律案は、国鉄「再建」達成のためと称して、法制的タガハメをもって、国鉄35万人体制合理化をわれわれ国鉄労働者に押しつけんとするものであり断じて許してはならない。

地元との協議2年で一方的切り捨て

この法律案の反動性は、破産した一九六八年のローカル線83線区廃止計画をうわまねる攻撃である。それは、輸送密度（1日・1キロ当たり）二千人未満の全国88線区四千キロのローカル線を廃止し、約一万人の要員を削減する計画である。そして廃止対象線区は、地元の同意が得られなくても、二年間協議すれば一方的に切り捨てができるという内容であるのだ。

そればかりか「これまでの赤字ローカル線廃止案とちがって、地元の足はバスの形で確保する」といつつ、バス転換により、現行運賃の4・5倍の負担を利用客に負担させるといふものであり、徹頭徹尾、国鉄労働者と大衆に対し、犠牲を強要するものである。

われわれは、このローカル線廃止攻撃に対し、地域住民と連帯しつつ、乗務員運用合理化・検修合理化と並ぶ、35万人体制攻撃粉碎闘争の重要な課題として闘いをより強化しなければならない。

勝浦支部を先頭に木原線廃止反対に決起

2月21日、木原線を担当する勝浦支部は、木原線廃止反対闘争にたち上った。

支部青年部を中心に国鉄35万人体制粉碎・木原線廃止反対集会を開催し、集会終了後、地域住民との連帯した広範な反対

運動を組織すべく、全員で列車スローガン書き行動を展開したのである。気動車の横腹に、「木原線廃止反対！」「地域住民と連帯し闘うぞ！」「国鉄35万人体制粉碎！」と鮮やかに書かれたスローガン列車は、沿線住民を確実に揺り動かし、闘いへの共感をつくりだしている。

駅に到着すると、沿線住民が運転室にかけより、「動労千葉がんばれ、俺達も闘うぞ」と声が寄せられている。

夷隅地区交流会で廃止反対をアピール

連日わたるスローガン闘争をバネに、2月29日、勝浦支部は20名の青年部員を結集し、木原線廃止反対闘争を地区労の取組むべき課題として訴えるべく、夷隅地区交流会へ参加した。

交流会では、照岡青年部長が発言にたって、この間の動労千葉の闘いの報告をし、夷隅地区労として、木原線廃止反対闘争を地域住民の最先頭で闘うべきであると提起し、全体で闘うことを確認した。

こうして、勝浦支部を先頭とする木原線廃止反対闘争は、地区労、地域住民との連帯した闘い輪を着実につくりだしている。

動労千葉は、勝浦支部を先頭に国鉄35万人体制粉碎の中心的な課題であるローカル線廃止＝木原線廃止反対の闘いをさらに強化しよう。



勝浦支部青年部は、スローガン闘争に決起した。



動労千葉を軸に、地域住民・地区労の中に闘いの輪が拡大しつつある。

